

植民地下朝鮮における梨花女子高等女学校

— 「光州学生運動」を中心に—

The Rika (Ewha) Girl's High School during the Japanese Colonization of Korea
— Focusing on “Gwangju Student Independence Movement” —

太田孝子

要旨：

梨花女子高等普通学校は1886年、宣教師メアリー・スクラントンにより創設された朝鮮最初の女学校である。開校当初こそ生徒の募集に苦勞したものの、その後は開明的な学校として順調な発展を遂げた。しかし、日本統治下の影響を受け、1929年10月30日に光州市で起きた「光州学生運動」では、京城へ波及後、梨花女高普が最も活発な動きを見せ、「梨花女学校事件」とも呼ばれている。

本稿は、梨花女高普で展開された光州学生運動の扇動者の一人だった金貞玉（当時86歳）に対して実施した聞き取り調査の内容を関連文献と比較しながら検討し、運動の実態を記述したものである。主導者崔福順が担った諸学校への連絡者という役割を中心に、扇動者12人の動向を探った他、梨花女高普の生徒たちにとって忘れ得ぬ影響を及ぼした事件であったことをアンケート等から検証した。

はじめに

1886年は5月に女子のための梨花学堂が、6月に男子のための培材学堂が、9月には政府によって育英公院が設立し、「朝鮮に近代式学校教育が開始した年」と言われている。それ以前には女子のための教育機関は皆無だったが、近代式教育の出発点においては男子のための教育と時期が同じであったという点で、その意義が評価されている¹。各校の発展過程は、政府の学校である育英公院が最も活発だったが政治性が原因で短命であり（1894年廃校）、培材学堂は男子を対象としたキリスト教系の学校ではあったものの、早くから発展し現在に至っている。上記2校に比べると、梨花学堂は儒教的伝統によって深く幽閉されていた女子を対象としたため、学校運営においては最も苦勞している。

関連のどの文献にも「梨花学堂は一人の生徒から始まった」と記されているように、設立者のスクラントン（注：Mary F. Scranton、アメリカのメソジスト教会海外女性宣教会から派遣された宣教師で、1885年5月に来朝した）は塾を開いたものの生徒が来ないという苦勞の末に、ようやく政府高官の側室を最初の生徒として迎えた。王妃の通訳になりたいというその女性金氏に英語や聖書を教えたものの、3カ月で病気のため学校を去ることになった。しかし、梨花は金氏のために授業を始めた1886年5月31日を創立日としている。2番目の生徒は養育能力のない母親が預けた女子であり、3番目の生徒はコレラに罹患し捨てられた女性の傍らから拾ってきた女子である。創設初期においては、衣食住を提供し、無償の教育を実施しても生徒を集めることは難し

く、翌年正月にようやく7人になった。ぼつぼつやって来る女子のほとんどが庶民階級の出身者であった。このようなスクラントンの努力に応え、1887年2月には大韓帝国初代皇帝（朝鮮王朝第26代国王）高宗が「梨花学堂」という校名を授けている。1918年2月には学則の変更により高等科と普通科を分立して、梨花女子高等普通学校²、梨花女子普通学校（注：小学校に対する朝鮮向け名称）に改称した。本稿の対象は、梨花女子高等普通学校（以下、梨花女高普）である。

その後、生徒数は1899年には47人に、1909年には174人に増加しており、他の私立女学校が20～30人だったことに比べると順調な伸びを示したと言える。後には両班階級、特に開化志士の娘や婦人が入学することもあり、それが朝鮮の根深い階級意識を取り崩す発端になったとも言われている³。しかし、常に日本統治下の政情に左右され、様々な影響を受けた。中でも、1929年10月30日に光州で起きた「光州学生運動」は、首都京城（現、ソウル）に波及するや、梨花女高普が最も活発な動きを見せ、「梨花女学校事件⁴」とさえ記録されている。この名称も筆者の目を引いたが、事件の扇動者だった一人の卒業生と出会ったことが、一層光州学生運動に関心を持つ契機となった。

所属する「高等女学校研究会」では、1996年に植民地下にあった梨花女高普の卒業生に対してアンケート調査を実施し、その回答を読んでさらに何人かの卒業生にインタビューを行ったが、その一人が本稿で取り上げる金貞玉（当時86歳）である。

「昨夜、私は神さまに祈って、私の命をこのように長くし、また、ほけないように私を守って、今日、皆様方に会うようにして下さったことを感謝いたしました。」

日本語で訥々と話されるこの第一声で、丁重に迎えられた我々一行⁵は、淡いピンクの正装のチマチョゴリ姿の金貞玉が、鶴首の思いで今日の日を持ち望んでいたことを痛感した。1999年3月25日午後、ソウル市鍾路区にある金貞玉宅への訪問であった。

インタビューの全文は筆者がテープより起こして、高等女学校研究会プロジェクトチーム編『高等女学校に関する調査資料No.7』（2000年刊）に載せ、さらに同研究会会員の山本禮子が「邂逅—光州学生事件との関わりの中で」という論文を2000年に発表した（和洋女子大学紀要・文系編40号所収、高等女学校研究会プロジェクトチーム編『高等女学校に関する調査資料No.10』、2004年刊に転載）。

しかし、金貞玉の発言及び山本論文を吟味したところ幾多の間違いや齟齬を発見したため、その後刊行された関連資料も検討し、光州学生運動を全面的に捉え直すことにした。本稿は、梨花女高普で起こった光州学生運動の扇動者の一人だった金貞玉への聞き取り調査を基に、光州学生運動を様々な角度から吟味し、梨花女高普の生徒たちに及ぼした影響を考察するものである。なお、文献及びアンケートからの引用には京城とソウル、朝鮮と韓国などが入り混じっていたり、文法的に間違っている文章も見られるが、原文のままとした。

1. 金貞玉のプロフィール

金貞玉は1912年7月、京城府唐珠洞に誕生した。29年梨花女高普に入学し、32年に卒業している。アンケートの「女学校入学時の動機」の欄には、「両親とも死亡、保護者であった叔母（母の妹にあたる梨花女子大学総長金活蘭博士⁶）の勧めで」と記されている。父の仕事の関係で15歳まで北京に住んでいたが、7歳の時に父と死別し、その8年後、母と共に生まれ故郷京城の叔

母の家に身を寄せることになった。しかし、その母も17歳の時に病没したため、以後叔母を頼ることになったのである。長い間北京で生活していたため、日常使用していた言葉は支那語であった。そのため、梨花女高普編入に際して、①学年を2年下げて普通学校の5年生に編入すること、②日本語の平仮名・片仮名、ハングルを学習して一定の成績をおさめなければ退学、という条件が付けられたという。夢中で勉強したという当時の様子を、昨日のこのように「私は、その時15番になりました。だから梨花の生徒になれました。そんなに勉強したことを今も誇りに思っています」と顔をほころばせながら語ってくれた。

アンケートには、印象に残っている教科として、歴史、英語、数学、理科、音楽を挙げている。教師としては、誰もが愛国者として尊敬した朝鮮語と漢文担当の金洵濟先生、担任で数学、物理・化学担当の鞠採表先生（延世大学卒業）が特に印象に残っているという。最も尊敬する日本人教師は、現代国語の二階堂先生（男性）で、哲学の造詣が深い先生だったからという回答であった。また生徒全員が尊敬した古文の平田先生は、教え方が真剣で、日本人としてのプライドは高かったが、醜くはなかったと鋭い評価を残している。その他、朝鮮語と裁縫の文仁順先生（女性）や国語の大島先生の名前が挙がる。特に、「大島先生は優しい先生で、家に呼んでおいしいものを食べながら、日本語の発音を教えて下さり、励ましてくださった」と懐かしそうだ。遠い昔の記憶力に感嘆すると共に、意義深い学校生活だったことが窺えた。

卒業後の進路としては「梨花専門学校、梨花専門の助教として2年間勤務、引き続き同大学で教授として勤務」と記されていたが、次のような証言を得た。1936年から38年まで平壤の栗の多い農村に住んだ。文字を持たない人々に少しでも光をとの信念を持ち、夜学で住民に文字を教え、朝鮮の歴史も密かに教える教師として平壤に行ったのである。しかし、後述する光州学生事件との関わりでブラックリストに載っていたため、刑事の監視が常にあり見つかってしまう。「もう農村には来るな。京城から離れてはいけない。2時間以内に出て行かないと逮捕する」と言われ、梨花に戻ったのである。「農村教育をしたかったが、村を出てきてしまったことを思うと心苦しい。農村で働き続けたかったという思いはずっとあり、今でも気になっています。でもね、梨花に戻ったことはよかったと思っています」とずっと心に秘めてきた思いを吐露してくれた。

この行動には叔母金活蘭の強い影響が窺える。注6に詳述したが、金活蘭がコロンビア大学に提出した学位論文は「朝鮮の復興のための農村教育」であり、1920年代の朝鮮の農村の実態を分析し、教育を通じた農村復興の方法と方向を提示した当論文は、当時農村運動を展開する上で指針とされた⁷。教育を受けることができずに学齢期を超えてしまった女性たちの間に芽生えた教育熱と、教育を受け啓蒙的な思想を持った女性たちの思いが相乗的に結合し、各地に講習会、夜学、伝道活動などのブームが起こったのである。最も社会の注目を集めたのが金活蘭主導の梨花学堂の教師たちによる「七人伝道隊」で、北朝鮮一帯を巡回・講演してキリスト教信仰や愛国心を説き、女性の覚醒を促し、読み書きを教えている⁸。金貞玉の行動は叔母の活動に習ったのものであったのである。

金貞玉は『叔母 金活蘭⁹』の著者でもあり、奥付には金の履歴が以下のように記されている。

梨花女子専門学校文科卒業、米国ワシントン州立師範大学教育学部卒業、梨花女子大学院教育学部修了。この間、教育心理学並びに韓国文化史を専攻。梨花女子大学で名誉文学博士の学位を取得し、米国南カリフォルニア州立大学東洋学部で韓国文化史の講師を勤めた。また、梨花女子大学教授の傍ら、学生課長、韓国YWCA連合会理事も兼任した。1978年に

シン・サイムダン賞を、1982年にソウル教育賞（社会分野）を受賞。

上述のような活動が、アンケートの「女学校教育はどのような意味があったか」という質問に、「20世紀の韓国の女性教育に身心を全的に奉仕したと思っています。一生を梨花大学で教授しました」という力強い回答をさせたのであろう。インタビュー当時は、韓国YWCA連合会後援会理事長ならびに亡夫が校長として勤務した学校法人ドング学院理事長の要職にあり、回答を裏付けるように1998年には名誉梨花人賞を受賞している。

しかし、我々が最も注目したのは「女学校在学中にあなたの生き方・考え方に影響を与えた事件は」の項に「光州学生事件」を、さらに「女学校生活全般を通して印象に残っていることは」の項にも再び「光州学生事件」と記していたことである。インタビューの主目的は、その点を詳しく聴取することであった。

2. 光州学生運動に関する金貞玉の証言

本章は、1929年10月30日に起きた光州学生運動に関する金貞玉の証言を記したものである。日時など金の記憶違いと思われる個所も散見されるが、他の資料・文献と照合しての分析は次章で行った。なお、金貞玉の証言にも出てくるが、各種関連文献でも「光州学生運動」「光州学生事件」「光州学生万歳事件」の用語が使用されているので、証言・引用文等は語句を統一せずそのまま記した。

① 証言一事件の発端と京城への波及

金貞玉が話したいと切望する「光州学生運動」とはどのような事件だったのであろうか。きっかけは、10月30日、朝鮮人と日本人の学生同士の小競り合いから始まる。汽車通学で朝鮮人と日本人は一緒になったが、朝鮮人女生徒が長い髪を結って赤いリボンで結んでいたのを、日本人中学生がひっぱったり、冷やかしたりしたのである。それが、日朝双方の学生間の流血騒ぎに発展し、次第に民族的感情を誘発する導火線となっていく。

朝鮮人学生は怒って日本人学生を打ち、日本人学生は一緒になって朝鮮人学生を打ちました。何日間もケンカが続き、大きな騒動となり駅で双方が争ったわけです。でも警察は日本人学生には関わらなくて、朝鮮人学生たちを獄に送りました。学校に戻れないということを高等普通学校の生徒も知るようになりました。この事件の状況が新聞等で伝わり、ソウルの高等普通学校の学生たちにも影響を与え、決起となったのです。私は12人の煽動者の1人です。主導者は崔福順1人です。その下に煽動者12人がいました。私たち13人がこれを起こすようにしました。今は、みんな死んで私だけが生きています。

その声には、生き証人として、是非とも我々に語らなければならないという意志が感じられた。

光州学生事件を、私たち韓国人は「光州学生万歳事件」と言います。これについては『梨花百年史』に書かれています。けれども主導者と12人のことは書かれていません。私は今日、一人のことを話します。私から聞いたことは、本当に13人の中の一人ですから、確かです。

12人は煽動者です。生きている私が本当のことを言う、証言者になることは嬉しいです。

金は、13人のうち記憶している6人の名前を漢字で、2名の名前をハングル表記で紙片に書いたが、それらは、「崔福順（主導者）、揚元淑 4B（注：4年B組の意、以下略）、郭福女 3B、

金貞玉 2B、金鳳凱、尹福、ハングル表記のうち1名の姓は不明、名は玉粉 3A、ハングル表記1名（注：林敬愛を指す）」であった。

私たち13人は一緒になって学校のみんに呼びかけました。崔福順は男の着物を着て、男の格好をして何日の何時に一斉に万歳を叫ぶように決め、私たち12人は、梨花高等の生徒たちみんなに連絡して、一緒に道に集まって万歳を叫ぶようにしました。その日時は11月3日（注：この日付は金の記憶違いであり、次章で言及した）です。初め、朝10時に万歳を叫ぶようにしたんです。男子学生より女子が中心になった動きです。そのうち警察が学校を囲んだので、私たち13人は一緒になって10時にしないで9時に万歳を叫びましょう、と。みんな教室で靴を履いて待っていました。9時になって、私が一番先に「万歳」と叫んで外に出ました。そして林敬愛が続いて「万歳」といって飛び出しました。警察は、梨花と培材学校（注：既述した隣接するキリスト教主義の男子校）の間の鉄条網を閉じて、出ていく人や万歳と叫ぶ人の着衣に白墨で印をつけていました。私の後ろにもマークをしました。そして私が見たら、たくさんの人にマークがありました。だから「注意しましょう。背中にマークしている」と言いました。警察は私たちを梨花学校の教室に閉じこめ、鍵をかけました。その時、林敬愛が教室の窓ガラスを手で破り、外に出ました。彼女は学校の窓を割ったということで破壊罪で逮捕され、6ヶ月以上監獄に入っていました。私はその時2年生でした。実際の年齢に関係なく、2年生は監獄に入れないのです。3、4年生は監獄に入れるのです。私は留置所に2週間引っ張られました。それから梨花学校の寄宿舎に3ヶ月間監禁されました。終日、寄宿舎内に居るように命じられたのです。

② 拷問

でもね、拷問は同じでした。「首謀者は誰か？」それを聞くのです。「分かりません。私は日本語も分からない。支那から来たので誰が誰だかも分かりません。」日本の警察は、尋問だけしました。答えなかったら、「馬鹿」と言って朝鮮人の刑事に私を任せます。その人は非常に怖いのです。朝鮮式の体罰¹⁰をします。それは、指の間に棒を入れて指3本を締め付けるんです。刑事は「誰が首謀者か？」と言って私を跪かせ、「おまえ、早く答えろ」と、やかんの冷水を口に入れる。いわゆる、水拷問です。2、3度やられると私は気絶する。するとうつ伏せにして水を吐かせ、また水を入れるんです。私は、自分が拷問される時はあまり怖くない。殺すなら、殺せと思った。でも、3年生の拷問を立てて見ようとした時、本当に怖かったです。2年生にはそんなひどい拷問をしない。でも、3、4年生にはほんとうにひどい拷問をします。崔福順は最後まで拷問されました。留置所を出るとき、犬の鳴き声のような声を出していました。精神異常になったのです。美人の金鳳凱は刑事に特別扱いされました。12人は拷問されても何も言わなかったで、その後、釈放されました。

金貞玉は、この想いを伝えるために、英語や韓国語、時に日本語を使って表現しようとしたが、その懸命な姿に、聞く我々にも緊張が走った。

留置所にいる時、男子学生がやって来て外でハーモニカで国歌を吹いたという。所内にいる者は皆、外から聞こえてくるハーモニカの国歌の調べに泣き、「万歳、万歳」と叫んで、また泣いたそうだ。西大門警察は女学生は連行後に留置所に収容したが、男子学生は収容しきれないので扉に向かって立たせておいた。後ろ向きになった男子学生たちの近くで、女学生たちは拷問を受

けた。「万歳」と叫ぶ学生に警官はホースで水をかけ続けたという。極寒の中、それがどんなに残酷なことだったかは想像に余りある。それでも「万歳」と言い続ける学生たちを、警官は次々に鞭打ったのである。これらの拷問に対し、日本の警察は直接に手を下さず朝鮮の警官に任せていた、と金貞玉は再三強調した。

③ 崔福順への思い

おもむろに、しかし情熱を込めて、金貞玉は再度口を開いた。

主導者は崔福順、12人は煽動者です。林敬愛は破壊罪で逮捕され、半年牢獄にいたために、解放後、国と梨花学校の両方から賞をもらいました。林さんだけが賞をもらったのはおかしいと思います。一番ほめられるべき人物は崔福順です。韓国では当時のスチューデントパワーのことを知らない。政府が意図的に隠しているとも思えるし、記録を破壊しているとも考えられます。このことを韓国で発表したのですが無視されたので、日本で発表して欲しいと思っています。

光州学生万歳事件の生き証人として、実際に体験したことを語りたいと祈りつつその時を待っていた金貞玉の想いは、ただ崔福順の功績が公に認められ、顕彰されることにあったのである。

3. 証言上の問題点

① 『梨花百年史』に記された光州学生事件とその問題点

梨花女子高等学校編の学校史『梨花女子高等学校100年史（『梨花百年史』と略記）』、梨花女子大学編の学校史『梨花女子大学校100年史（『大学百年史』と略記）』¹¹には、それぞれ「光州学生事件」が記されているが、日付に相違がみられる。『梨花百年史』の記述は以下のとおりである。

1929年に韓国の学生運動において大きな足跡を残した光州学生運動が起こり、梨花の幹部クラスの生徒たちは屋根裏部屋に集まって、光州学生事件擁護同盟中央本部を組織し、大極旗1,000枚とプラカード60枚、多数の宣伝ビラを作って11月15日を梨花の出陣式と定めた。その日、梨花女子高等普通学校の生徒400人余りは、黒い運動靴を最初の授業時間から履き、授業が終わった鐘の音と同時に校庭に集合した。各自は大極旗を手に持ち、あるいはプラカードを高く掲げ、ビラを持った生徒は、12人で組織された煽動隊の指揮に従って一斉に万歳を唱えた。

金貞玉の証言と照合してみると、日付は、1929年11月15日となっている。また生徒たちは煽動者の指示に従って、始めから黒い運動靴を履き、校庭に出る用意をしている。しかし、煽動隊12名とあり、主導者が抜けてしまったか、あるいは、主導者も煽動者の役割を果たしたとしてその中に組み込み、2年生であった金貞玉が抜けてしまったのか、その点は判然としない。当時の事情を教師だったソ・ミョンハクは次のように回顧している。

その時、屋根裏部屋は使えないようになっていたんです。ところが、生徒たちが数人、出入りしているようだったので、一人の生徒をつかまえて尋ねてみると、会長室に行くというのです。一階には会長室はありません。おかしいと思っていましたが、次の日の朝、教室をのぞいてみたら、全員が室外で履く黒い運動靴を履いていました。室内では白い運動靴を履くように定められていたにもかかわらずです。生徒たちが何かをしようとしているのだと思いますが、鐘の音が聞こえると急に外に走って出ていきました。

続く『梨花百年史』の記録は、以下のとおりである。

それに培材の生徒670人が呼応し、両校の生徒が群をなして街に出ていこうとしたとき、西大門警察署が出動し、デモを阻止する一方、主導者54人を連行した。学校は16日から休校となり、チャーチ校長は西大門署の高等係主任、黒沼を訪問し、金マリア他53人の釈放を嘆願したが、聞き入れてもらえなかった。梨花の生徒たちの万歳運動は瞬く間に市内の他の学校に普及し、17日には培花、貞信など、多くの学校が休校となった。その後、総督府の学務局は休校令を出し、抵抗運動を阻止しようとしたが、ソウルの学生運動はさらに激しく拡散し、12月のはじめから10日間で1,000人が検挙される事態となった。そのころ、梨花では新しい幹部クラスの生徒たちが夜になると屋根裏部屋に集まり、第二の万歳運動を計画していた。

しかし、上記には幾つかの問題点が見られる。第一の問題点は、「11月15日が梨花の出陣式」という表記である。金貞玉の言う11月3日は光州市で朝鮮人学生が日本人学生に対抗し、大規模な組織的闘争を展開し始めた日であり、その後急速に抗日運動へと発展する契機となったもののまだ京城には波及していない。

後にも触れるが、10月30日に光州で発生した事件が京城に波及するのは12月に入ってからであり、以下の日程での動きが正確な運動の流れである。

12月2～3日、京城帝大予科、第一高普など各校の教室に檄文が散布されて始まった。(略) 9日からは各校で同盟休校・街頭示威が行われた。(略) 女学校では10～11日にかけて万歳高唱などの動きがあるが、男子校に比べるとずっと小規模であった。この時期の運動で休校となる学校が多く、そのまま冬休みに入っていく。(略) 12月9日夜、許貞淑・朴次貞と梨花女子高等普通学校代表の崔福順(同校基督教青年会会長)の3名が集まり、新学期開始と同時に女学校が一斉に運動することを決めた。(略) 各学校の代表が集まったのは、年が明けた1930年1月14日の夜である。この夜、翌15日午前9時を期して、各学校の女生徒が一斉に立ち上がり、鍾路に集まって街頭示威をすることを決定した¹²。

すなわち、光州学生運動における梨花女高普の出陣の日は金貞玉の記憶違い、『梨花百年史』の記述の間違いであり、金貞玉の示威運動の内容及び検挙等の証言は12月及び翌年1月の出来事(後述)を11月に連続して起こったものと記憶したための齟齬だったと言える。よって「12月のはじめから10日間で1,000人が検挙される事態となった」という記述も、間違いである。

第二の問題点は、「金マリア他53名の釈放」という記述である。この記述に登場する「金マリア¹³」は「3・1運動」(1919年3月1日)で活躍した人物であり、二つの事件を混同したものと言える。さらに「54人の連行」という記述も、『大学百年史』では57人と記されており、この点にも相違がみられる。

しかし、光州の日朝の学生たちによって始まった騒動は12月に首都京城に波及し、それに呼応して梨花女高普・梨花専門学校でも全校生徒による示威運動が起こったことは事実である。

②『光州抗日学生事件資料』との照合

光州学生運動に関する総督府の文書は『光州抗日学生事件資料 朝鮮総督府政務局極秘文書』¹⁴(以下、『事件資料』の略記も使用)としてまとめられており、最も重要な資料と言える。朝鮮総督府学務局長より兎玉政務総監宛報告書および各道知事宛通牒としての「事件の概要」の

他、「概要」、「状況摘録」、「光州学生事件及其の影響（其の一、其の二、其の三）」、「光州、京城に於ける学生事件の裏面竝学生秘密結社及其の系統」、「秘密結社朝鮮共産党事件」が収録されている。巻頭には姜在彦が解説を書き、凡例からは以下のような資料であったことが分かる。

- 1) 光州学生事件に関して朝鮮総督府警務局が克明に調査した極秘資料を中心に編集したものであるが、[秘密結社朝鮮共産党事件]のみは調査機関、出所も不明である。しかし、同系統の調査によるものと思われるので収録した。各資料にはいずれも秘の印が捺されていた。
- 2) [光州中学校生徒対光州高等普通学校生徒争闘事件の概要] および [秘密結社朝鮮共産党事件] は罫紙に複写紙を入れて鉄筆で複写したものであり、[学生事件裏面系統図] はオフセット印刷、他はタイプ印刷および謄写版印刷であった。
- 3) 人名は原文のままである。

本章では、当時の状況を詳細に収録している「光州学生事件及其の影響」を中心に、他の文献も参照しながら、事件の概要と梨花女高普の動向に焦点を当て検討する。

事件の第1期は、1929年10月30日下校時の汽車の中で、朝鮮人女生徒を日本人中学生がからかったことから、11月3日の明治節に日本人中学生と朝鮮人高等普通学校生が衝突したことに端を発した朝鮮人学生の動きが、「光州学生運動に連帯する京城の学生運動へ」と拡大していった12月までを指す。解説者姜在彦は、11月の動きを次のように記している。

光州学生運動は、朝鮮語新聞に対する厳しい報道管制と検閲による記事削除にも関わらず、ソウル各団体の調査団が派遣されて、その真相が次第に全国的に知れわたるようになった。…光州学生運動に連帯するソウルの学生運動は、培材高普からのろしがあがった。従来校務主任の交代を要求していた培材高普の3、4年生は11月15日から同盟休学に突入し、養正高普でもこれに同調する動きをみせた¹⁵。

上記からも分かるように、梨花女高普に隣接する培材高普では、「校務主任の交代を要求」して、11月15日から同盟休校に突入したのであり、喧騒を伴ってはいない。梨花女高普がたとえ同校に隣接していたとしても、同じ日に『梨花百年史』が記すような光州学生運動関連の動きが起こることはなかったはずだ。もし『梨花百年史』の記述のように、11月15日に梨花女高普で示威運動が起こったとすれば、総督府は必ず記録したはずであり、『事件資料』に言及がないということは、11月15日には何の動きもなかったということを意味する。総督府は各校の動きを確実に把握し、それほど詳細な記録を残していたのである。

さらに、「解説」で「従来基本的には全羅南道に限られていた光州学生運動は、日本警察を中心とした消防隊、青年団、在郷軍人会などによる集中的打撃を受けた。ところが12月に入って、運動の中心舞台はソウルに移り、一部は地方都市に波及していった¹⁶」と記していることから、京城の学校で動きがあったのは12月に入ってからであることは明白である。

この時期の梨花女高普関連の記事は他校に比し些少で、『事件資料』（波及状況の記録）には「12月9日、私立梨花女高普校内に於いて一斉に万歳を高唱し喧躁す」との記事が残るだけであり¹⁷、11月の記録は見当たらない。また「事件及其の影響」には、京城府内27の学校別の動揺状況が表で示されているが、私立梨花女高普の欄には、12月9日「昼休盟休を謀議」、12月11日「本日より臨時休校」とのみ記載され、「12月11日、京城府内朝鮮人各中等学校生徒の動揺」の記事に梨花の校名が記されているだけである。この記述内容は『大学百年史』、他の文献の記事と

も合致している。

京城の各校に関する記事は以下のとおりであり、12月の段階ではそれほど大きな動きには至っていないことが分かる。

前日来動揺の各校は本日（注：12月11日）も依然動揺を続け怠業状況にありたるも、特に不穩の行動に出でたる者なく、連日の状況に鑑み、徽文、普成、敬新、協成実業及び淑明、進明、梨花、同徳の各私立学校は本日より当分休校する旨発表し、夫々生徒父兄に通告せり。尚京畿道に於て去る9日以来検束せる学生に対し9日夜、442名を釈放したるが、更に昨10日深更401名を釈放し、引続き検束中の者211名なり¹⁸。

『事件資料』『大学百年史』『植民地下朝鮮・光州学生運動の研究』などを検討すると、梨花女高普では12月9日に最初の行動が起こったと断定することができる。

いずれにせよ、光州学生事件発生から約1ヵ月後に朝鮮人学生が在籍する京城府内の学校でも、光州の高等普通諸学校と連帯するための同盟休校等の動きと共に植民地教育の問題点を指摘した徽文を撒布する運動が激しくなり、翌1月からは多くの逮捕者を出す事態になっていくのである。

4. 光州学生運動への朝鮮総督府の対応

このような状況への朝鮮総督府の対応として、1930年1月13、14日の道知事会議での関係者の発言を挙げておきたい。以下は、1930年2月発行の雑誌『文教の朝鮮』に記載されたものからの抜粋である¹⁹。

〈朝鮮総督府訓示一抜粋〉

今や疆内概ね靜謐なりと雖接壤地方の政局の転変に伴ひ疆外より匪賊の侵入を見るやも測り難く又輓近不穩の思想を抱き国家社会存立の基礎を危うくせんとするもの漸く多からんとするを以て各位は宜しく当該官憲を督励し之が警防取締を厳にし不良の輩をして蠢動の余地なからしむると共に不穩なる思想運動の根絶に全力を尽さんことを期すべし。

続いて学務局および警務局主管からの指示が記されている。

〈学務局主管7 学生生徒児童の訓育に関する件〉

近時学生生徒児童中往往志操堅実を欠き不穩なる思想に惑溺して貴重なる勉学の途を誤る者あるは真に憂慮すべきことなり此の点に関しては数次指示するところあり各位に於いても夫夫留意せられつつあることと信ずるも今後一層部下職員を督励し校風の作興校規の振肅を図り教導感化の実を挙げ以て学生生徒児童の思想を善導し其の帰趨を誤らしめざるやう勤めらるべし。

〈警務局主管13 学生運動の取締に関する件〉

最近激増せる疆内各種学校の盟休事件は昭和2年以降殆ど共通的に民族主義的及共產主義的傾向を帯び来り其の実行方法も最初より計画的組織的に行はれ単なる年少学徒の行動とのみ見るべからざるものあり殊に昨年11月全羅南道に於て勃発せる所謂光州学生事件竝に之に関連して起りたる不穩行動及京城・平壤・咸興・春川・東萊等の各地に於ける公私立中等学校生徒の動揺盟休等に就き其の状況を仔細に観察するに其の運動手段方法等より見るも決して学生の創意に非ざるべく必ずや裏面に策動の深き根源あるものと認め所轄道に於て捜査の

歩を進めたる結果光州・京城に於ける事件は国際共産党の学生指事方針に基き朝鮮に於ける共産主義者等が各学校の子女に糾合煽動して秘密結社を組織し預て主義の教養に努めつつありたるものにして偶今回の事件発生を機とし之を利用して不穏なる事態を惹起こせしめんとして画策せられたるものなること判明せり蓋し純真にして春秋に富む学生を駆つて主義運動の渦中に投げ或は之を使喚教唆して不穏行動に出でしめ其の前途を誤らしむるは寔に寒心に堪へざる次第なれば各位は平素一般学生思想・言動・主義及思想団体との交遊連絡等に関しては深甚の注意を払ひ苟も事案発生するに於ては極力裏面策動の本源を究め之が禍根を芟除し以て青年学徒の将来を誤らしめざるやう努めらるべし。

上記により、前年の11月及び12月の光州学生運動に関連する学生の動きは総督府にとって、軽視すべからざるものであったことが分かる。この事件を、「学生の創意によるものではなく、共産主義者等が各学校の子女を糾合煽動して秘密結社を組織して起こしたものであり、さらにはこれを利用して不穏なる事態を惹起しようと画策している」ものと捉え、「思想運動の根絶に全力を尽くさん」ために、刑務局から指示を出す等の対策を取っていることが分かる。

姜在彦は、総督府の対応の結果を以下のように綴っている。

このように光州学生運動は、其の中心舞台が11月の光州から、12月のソウルに移り、公然または非公然、社会主義または民族主義的諸団体との結合によって、民族運動全般への発展を志向したが、日本官憲の先制的弾圧によってそれは十分に実ることができなかった。しかし同盟休校と冬季休暇によって帰郷した生徒たちによって、新聞紙上では厳しい検閲のために断片的にしか知りえなかった光州学生事件の真相が各地に伝わるにしたがって、運動の火種は朝鮮の津々浦々にひろがる結果となった²⁰。

5. 光州学生運動—その後

① 梨花女高普生徒の抵抗運動

1930年1月15日午前9時30分、市内の9女子校と5男子校で、一斉に「万歳」の声が挙がった。官憲は既にこの計画を察知し、早朝から各校に待機し警戒していた。梨花女高普はこの示威運動で中心的役割を果たし、「梨花女学校事件」と呼ばれるほどの活発な動きを見せた。『梨花百年史』には、その状況が以下のように記されている。

1930年1月15日、全校生が運動場に集まって万歳を叫び、プラカードを持ってスローガンを叫びながら校外に出て行こうとしたが、警察に止められ、校外に出られなかった。そしてプラカード60枚を取り上げられ、主導者が逮捕された。また、主導者の搜索に非協力的だったソ・グァンジン先生が17日に検挙され、18日に新たに梨花の生徒17人が検挙され、合わせて57人の被検挙者のうち、15人は放免され、42人は引き続き取り調べを受けていた。16日から20日までを休校としたが、事態が収拾されなかったため休校はさらに1ヶ月延長された。18日、学校側は崔福順、林敬愛、アン・イムスン、ナム・ドクンなど12人を退学させ、楊元淑、金鎮賢、崔允淑など数人を無期停学とすることで事態の収拾を図ろうとした。しかし、学生運動はさらに広がり、ソウル市内の30校でもそれに賛同した12,000人が抵抗運動に出るといった結果となった。女学校としては梨花、培花、淑明、進明、貞信、女子商業、同徳、檀花、実践女子美術の9校が参加し、男子校としては培材、養正、普成、第一普高など16校が、

さらに専門学校6校が参加した。

『事件資料』は1月15日の梨花女高普の動きを、次のように記録している。

京城私立梨花女子高普生は始業と同時に喧躁し、2尺四方の白布に「学校警察侵入反対」「植民地教育政策全廃」「光州学生事件に対し憤慨」等墨書せる大旗並旧韓国旗及赤布又は白紙に「無産階級開放万歳」「被圧迫民革命万歳」等と記載したる小旗を各自振翳し喊声を揚げて校外に脱出せむとしたるを以て教師1名生徒50名を検束す²¹。

さらに、京城府内私立学校動揺状況として梨花女高普の欄に、不穩行動参加生徒数約600名、不穩行動の内容として以下のような記述が残っている。

第1時間目授業中、3年の動揺と共に全校生徒校庭に集合、白木綿製旗に『学校警察侵入反対、光州学生事件に対し憤慨、学生犠牲者全部釈放』等数項目の不穩字句を記入せるもの及赤旗、旧韓国旗紙製小旗多数を翳して喧躁、万歳を高唱し、隣接培材高普生徒を誘引せんとして阻止されたる為、警戒員に悪罵、反抗的態度に出で窓硝子を破壊する等の暴行に出でしを以て首謀者生徒50名、教師1名を検束、鎮静せしむ²²。

すなわち、梨花女高普の動きは以下のように要約することができよう。

全校生徒が校庭に出、用意したビラと赤旗・旧韓国旗等をかざして万歳を叫んだ。60余名の官憲が校門でさえぎったが、一部の生徒はこれを振り切って、旗を先頭に向いの培材高普へ走り寄り、同校600余名の男子生徒と共に万歳を叫び、呼応しあった。出られなかった生徒たちは窓ガラスを壊し、教室で演説・痛哭するなどした²³。

1月15日から3日間で、京都市内の私立学校22校、生徒数約5,000名がこれらの動きに加わっている。検束者数は410名を上回り、梨花女高普は16日から1ヶ月間休校となった。

その後、3月1日には、3・1運動を記念して再起計画が組まれたが、一大抵抗運動に発展することを恐れた日本の警察は周到な体制をとった。その結果、翌2日の「東亜日報」は、機先を制した警察側の各校撃破によって散発的な「理由の分からない盟休」で終わったと報じている²⁴。

総督府は、2月以降の暴動発生事件の概況を伝えながら、多少の動揺はあるが、「概ね平穏に経過し学生事件も今や終息の観あり、警戒に努めたる結果、平穏に経過す²⁵」等と概況をまとめている。それは、方々で発生する学生の動きを権力で押さえ込んだ結果であり、梨花女高普でもこの時期の表面的な動きは皆無である。

② 処分の状況と解放後の顕彰

『梨花百年史』には、「この運動に同調して参加した学校の総数は、全国194校で、参加学生は54,000人を数え、これによって退学処分を受けた学生は582人、無期停学が2,330人、そのうち送検された学生は1,205人にもものぼった」と記されており、他の資料との間に大きな相違はみられない²⁶。1930年1月15日の行動によって、金貞玉が証言するように、崔福順をはじめとする11人が検挙されたのであり、学校関係者に関する情報は以下のとおりである。

1月18日、学校側は崔福順、林敬愛、アン・イムスン、ハム・ドクンなど12人を退学させ、楊元淑、金鎮賢、崔允淑など数人を無期停学とすることで事態の收拾を図ろうとした。しかし、学生運動はさらに広がり、市内の30校でもそれに賛同した12,000人が抵抗運動に出るという結果となった。(略) 1月31日、崔福順ら11人が検事局に送検された。3月19日には初公判が京城裁判所で開かれ、20日に求刑が出され、23日に刑が言い渡された。崔福順、金鎮賢、

崔允淑、林敬愛は懲役刑を受け、ハム・ドクン、キム・ボンニム、チェ・ヒョンス、楊元淑、アン・イムスン、イ・オンニョンは執行猶予で釈放された。彼女たちの裁判には李仁、許憲、ヤン・ユンシクという3弁護士²⁷の無料弁護と、減刑を陳情したソン・ジヌ東亜日報社長の力が大きかった。この事件に関連してクス会（権友会）の許貞淑、女子商業の宋桂月も懲役判決を受けた。

梨花学生の屋根裏部屋での秘密集会を可能にした隠れた愛国者として、当時の教師ソ・グァンジンとソ・ミョンハクの他に、当時の寄宿舎の舎監朴敬淑を挙げることができる。朴敬淑は1929年11月の集会と、それ以降続けられた秘密集会を密かに知っていたにもかかわらず、学生たちを保護し、秘密を漏らさなかった。一方、梨花で何か事件が起こりそうになるたびに西大門警察署では予備検束を行った。

愛国者としての彼女らの真情に想いを馳せながら、梨花女子高等学校は「解放後、この運動で退学、除籍された愛国学生たちに、1945年と1950年の2回にわたって卒業証書を授与」という措置を執ったのであった。ここに崔福順も含まれていただろうが、金貞玉が望むような形で『梨花百年史』に崔福順の名が記され、顕彰されることはなく、金自身の名もどこにも記されていない。

③ 崔福順が影響を受けた権友会

京城市内の女子校が一斉に万歳を叫んだ示威運動は、「梨花女学校事件」と呼ばれるだけでなく、「権友会事件」とも呼ばれる²⁷。この運動が権友会の指導の下に行われたからであり、梨花女高普の主導者崔福順は権友会メンバーとして重要な任務を担っている。ここでは権友会における崔福順の動きを概観しておきたい。

権友会は、朝鮮女性団体の統一戦線として、1927年5月27日に創立した。1919年の3・1運動後、各地に誕生した女子青年会や基督教女子青年会は、夜学や講演・討論会を行うなど活発に活動していたが、それらは女性の啓蒙活動に過ぎず、階級解放を掲げた最初の女性団体「女性同友会」が1924年に結成される。しかし、メンバーの対立等により幾つかに分団後、26年になってようやく女性運動統一の気運が高まり、社会主義陣営及び宗教団体等左右両陣営の指導者が集まって組織されたのが「権友会」である。金貞玉の叔母であり梨花の総長でもあった金活蘭も結成当時の指導者の一人である。男性側の統一戦線としては、27年2月に新幹会が結成されている。

権友会は40の支部を基盤に労働争議の調査や全国的な夜学の開設などを通して女性の団結と地位向上を目指した他、「教育の性差別撤廃と女子の普通教育拡張」も決議し、学生の同盟休校に対しても関心を持った²⁸。許貞淑は、「女性同友会」の設立時から幹部として活躍し、京城の女子学生示威運動も指導した。それは、12月9日の運動への反省から始まる。男子に比べ、女子は無関心・無気力であり、何かしなければならぬと考えたからであり、その背景は以下のように記録されている。

権友会幹部許貞淑、禹鳳雲等会員数名は男子側生徒検束の実状を目撃し……多数の犠牲者を出し居るに拘はらず女学生側は恰も無関心の状態に在るは甚だ遺憾とする処なるのみならず、全く鮮人女性徒の無気力を表明するものに他ならずとなし……権友会として何等かの対策を講ぜざる可からずと為し……同夜（注：12月9日）は許貞淑方に於て同人及朴次貞、梨花女子高普代表崔福順の3名のみ会合、新学期開始と同時に京城府内各鮮人側女学校をして一斉に不穩行動を断行せしむべく協議し、各学校に対する連絡は崔福順単独にて之を為す

こととしたるも、次の学校に関しては知己なき関係上、許は多少知己の関係ある者を指名せり²⁹。

上記のとおり、この会合で、崔福順は連絡者の役割を任せられているが、そもそもは崔福順の方から許貞淑を尋ねて自分の意思を伝え、賛同を得たため上記の話し合いに至ったと言われている³⁰。しかし淑明の4年生が卒業を目前にしているから等の理由で決起に反対するなど足並みがそろわず、冬休みに入ったこともあって連絡は徹底しなかった。だが、母親が心配すると言って賛同しない学生がいると、崔福順は「母親に対する孝行より、この運動の方がもっと重要ではないか」と言って勧誘した³¹ようであり、崔福順の意気込みの程が伝わってくる逸話である。

次に各校の代表が集まったのは1930年1月14日夜のことである。梨花の崔福順、崔允淑、金鎮賢が連絡に奔走して各学校に連絡を付け³²、14校から50人程が集まった他、3名の男子学生も参加し、男子校への波及の準備もできた。15日午前9時半を期して各校の女生徒が一斉に立ち上がり、鍾路に集合して街頭示威をすることを決定し、「警察官に対しては故意に反抗してその憤怒を激成せしめ、殊更に苛酷なる取扱を為さしめむべく誘導し、一般民衆の同情と昂奮とに依りて一大民衆運動を誘発」すること、検束されたら留置所で同盟断食し、この会合の参加者と内容を秘密にすること等を申し合わせた³³のであった。

1月15日の運動決起の背後には、他校の女学生たちが卒業期であることや冬期休業中であることを優先する中、崔福順、崔允淑、金鎮賢3名の純粋な真情による各校への奔走があったのである。三人の努力が梨花女高普にも影響を与え、「梨花女学校事件」と呼ばれる程の行動につながったことが分かる。

1月15日には、梨花女高普生を含む140名前後の女学生が検束され、前述のように、梨花女高普は1ヶ月間の休校となった。1月31日、80余人の女学生と権友会関係者が検事局に送られ、うち55人は不拘束となり釈放された。そして、残る30余人中、権友会の許貞淑、梨花女高普の崔順副、崔允淑、林敬愛、金鎮賢、梨花専門学校の李順玉、女子商業学校の宋桂月、女子美術学校の朴桂月の8人が保安法違反で起訴されたのである。

公判が開かれたのは3月18日である。崔福順は「同じ学生の立場から[光州の]彼らに対する官憲の差別的処罰に同情せずにはおられなかった」と動機を述べ、「一斉に万歳を示威し、××な処罰で拘禁・呻吟する学生の釈放を要求したのである」と答えている³⁴。翌19日の検事論告では、指導した許貞淑に懲役1年、崔順福に同10ヶ月、他6名に同6ヶ月の求刑がなされた。判決言渡しは3月22日で、許貞淑—懲役1年、崔福順—懲役8ヶ月、李順玉—懲役7ヶ月・執行猶予4年、他5名—懲役6ヶ月・執行猶予3年とされた。執行猶予の6人は25日に出獄し、実刑を受けた許貞淑と崔福順は控訴権を放棄して服役している。

権友会という統一戦線が存在したが故に実行できた運動ではあったが、強まる官憲の弾圧に対しその運動を維持することはできなかった。キリスト教系の女性が権友会の主流となるや、社会主義系の女性たちは支部会単位で解消を決議し始め、同会は1931年に自然消滅している。

まとめ—アンケートに残る光州学生運動とその意義

金貞玉と同世代の人々にとって、光州学生運動に関する想いは強弱の差こそあれ忘れ得ない情景であり、事件であった。それがアンケートには明確に残っている。回答者は1927～36年の卒

業生であり、それ以後の卒業生になると「光州学生運動」に対する言及は皆無となる。

「1929年、光州学生事件があった朝、運動場に出て万歳を唱える学生たちを警官が教室に追い入れて、問題学生を呼んで警察へ連れて行くということがあった。長井先生が心配そうなお顔で『お入りなさい。騒がないことよ』と慰労してくれた優しい姿がいつもうかんできます。」

「影響を与えた事件：光州学生運動」

「先生方は皆韓国の独立を望む方々でした。光州学生事件の時、先生は学生たちを助けてくれました。私たちの学校では先生たちがみんな愛国心が強く、私たちもそれを受けて、私たちの間では日本語を使いませんでした。」

「光州学生事件の時、謀議に参加したが、さいわいにつかまらなかった。だがその時、排日精神、民族精神が定着した。」

「学生たちは民族精神が強く三・一運動の時は柳寛順女学生³⁵が刑務所でなくなり（反日運動）、光州学生運動の時は、梨花の女学生が主動になった。その時、金活蘭のような社会人士がたくさんいた。」

「影響を与えた事件は光州学生事件、影響を与えた人物は林敬愛さん。」

「光州事件の時、聖書担当の徐先生と一緒に警察に呼ばれた。その時、先生が日本の刑事に殴られたことが忘れられない。」

「梨花では日本の先生を除いて先生方は愛国心が強く、その先生方が反日精神、愛国心を起こして下さった。光州学生運動の時、警察と刑務所で学生たちを励ましながら、反日精神を強くした。」

上記のように光州学生運動に遭遇した世代は、そこに直接参加し、見聞きする中で、時代の荒波を乗り越えていく強さと自立心を形成しているが、それは梨花で教えられたと回想する卒業生が多い。以下は、その中の幾人かの回想である。

「高等学校の教育を通して世界をよく知るようになって、政治にも少し目を開くようになった。思春期だったので、感受性も理解力も高かった。自分の国のため何かをしなければならなかったと考えた。自分の人生の中で一番重要な時期だったと思う。希望も理想もあった。何でも出来ると自信に溢れていた。」

「信仰を通して植民地政策の圧迫と苦痛を乗り越えることができました。信仰を通して希望を持ちました。」

「基督教教育のため、愛国の念強く、信仰生活の基礎を築きあげる原動力になり、84歳の老後にも関わらず、強靱な精神と奉仕生活に忠実に励むことができると、女学校・梨花に対して感謝する。」

「女学校の教育は、自分の人生の中で進学・職業・結婚など、自分がやりたいことを考えて決める重要な教育でした。」

女学校での教育の意義を「自我啓発」と一言でまとめた卒業生もいるが、植民地下における学生運動は、女性の自立・解放の一端をも担い、影響を与えたことが窺える回答であった。

金貞玉の回顧談の中心は、光州学生万歳事件が起り、全国的に波及していく時期のごく初期のものである。しかし、新学期開始後、運動が全国的に拡大し、1930年1月8日の開校と共に、あちこちの学校で学生の白紙同盟、街頭示威、登校拒否等が続く。梨花女高普でも崔福順、崔允

淑、金鎮賢が権友会や他の学校の人々と共に街頭示威に参加し、1930年1月15日の梨花女高普の不穏行動に発展していく。金貞玉が運動の主導者として認めて欲しいと願っていた崔福順に対し、梨花女高普は1月18日に「退学」の措置を取る。1月31日には検事局に送検され、3月19日初公判、20日求刑、23日8か月の懲役判決を受けた。

崔福順がどのような最期を迎えたかは定かではない。金貞玉は、3ヶ月間の寄宿舎での監禁生活の身となり、崔福順とはその後、直接相まみえることはなかったのではないだろうか。少なくとも崔福順、崔允淑、金鎮賢は「1930年卒業」となるべき在籍者であり、4年生の揚元淑も卒業を控えていた一人であるが、梨花の卒業生名簿には1930年が存在しない。その厳粛な事実の裏には上述してきたような歴史が詰まっていたのであり、深い寂寥を感じる。

当時の学生運動の特徴は、学校教育における植民地教育政策との対決に始まり、それらを大きくは反帝的民族運動や階級闘争に結びつけていくものであった。姜在彦は「解説」の最後でこの運動を以下のようにまとめている。

1929年10月30日、朝鮮人生徒と日本人生徒との些細なトラブルから始まった光州学生運動は、ほぼ4ヶ月間に国際的ひろがりをもって進展した。この過程の中で先導的役割を果たした学生運動は、日本警察の機先を制した検挙と監視とによって、一般民衆運動と結合し得なかった欠陥はありながら、朝鮮における植民地教育政策への反対意志を行動をもって示し、反帝民族解放運動の重要な一環として大きな意義を持つものである³⁶。

金貞玉の見聞きしないところで、実は「崔福順」の名は多数記されており、その行動も詳しく記録されている。それは、金の望むような形ではないのだが、お会いする前に光州学生運動についてもっとよく学び、崔福順や光州学生運動に言及した文献を持参すべきであったと、悔やまれてならない。

注

- 1 鄭世華「韓国近代女性教育」からの一文であり、原文は梨花女子大校韓国女性史編纂委員会編『韓国女性史Ⅱ』に所収されている。同著は翻訳後、高等女学校研究会プロジェクトチーム編『高等女学校に関する調査資料No.7（韓国の女子高等普通学校・高等女学校の分）』（2000年）に掲載した。引用文はp.88。以後同著からの引用は、『調査資料No.7』を使用した。
- 2 日本の保護国となった大韓帝国では、1906年に教育制度を保護国の情勢に適合するよう改編した。「普通学校令」により初等教育機関の名称を小学校から「普通学校」に改め、1938年には内地の法令に準拠して尋常小学校と改称した。朝鮮人女子に対する学校教育の開始は1876年の開港以降のことであり、その後設立した多くの私立学校も、1908年の私立学校令により、学校の設立基準、教員の採用、授業の内容等が厳しく統制されたため、順調な発展を遂げるには至らなかった。淑明、進明、梨花、培花、同徳などの私立高女が、厳しい統制をくぐり抜けて存在してきた数少ない高女である。1911年の朝鮮教育令により、日本人向けの教育機関とは別に朝鮮人向けの教育機関が組織され、日本人女子は4年制高等女学校へ、朝鮮人女子は3年制女子高等普通学校へという別々の進路が制度化された。1938年の教育令改正によって、ようやく女子高等普通学校は組織上高等女学校に一本化されたが、認可校の多くは私立高女であった。梨花女高普では、1910年、韓国併合の年に4年制の大学科が、1915年には幼稚園師範科が設置された。1925年には専門学校に転換し、専門的な指導者養成学校

として認められるようになった。現在では、人文、社会科学をはじめ、自然科学、工学、医学、薬学など12学部を擁し、女子大学としては世界最大規模の大学に発展している。

- 3 鄭前掲書、p.88
- 4 丁堯燮著、柳沢七郎訳『韓国女性運動史』、1992年、高麗書林、p.198
- 5 高等女学校研究会会員の山本禮子（和洋女子大学教授）、福田須美子（相模女子大学教授）、太田孝子がインタビューを主とする調査に参加した。
- 6 金活蘭は女性運動家、教育者。雅号は又月、‘活蘭（ファルラン）’という名前は、洗礼名ヘレンの漢字表記である。1899年に仁川で誕生。1907年に梨花学堂に入学、小・中・高等科を経て、1918年に大学科を卒業した。しばらく教師として勤務した後、アメリカに留学。ウェスレアン大学、ボストン大学大学院を卒業して梨花女子専門学校教授に就任した。1930年に再度渡米し、コロンビア大学大学院で朝鮮人女性初の博士号を取得した（論文は「朝鮮の復興のための農村教育」）。1932年9月、梨花女子専門学校副学長に就任。YWCAの事業に打ち込み、農村指導に力を入れたが、1937年から朝鮮総督府が主管する親日団体である放送宣伝協議会、朝鮮婦人研究会、愛国金釵会などに参加し、1941年には国民総力朝鮮連盟評議員及び参事として活動した。その頃、「婦人同士の愛情と理解—内鮮婦人の愛国的協力のために」（『東洋之光』1939年6月号）、「徴兵制と半島女性の覚悟」（『新世代』1942年12月）、「男子に負けないよう皇国女性としての使命を完遂」（『毎日新報』1943年12月25日）などの文章・記事を雑誌や新聞に発表する一方、「女性の武装（1941.12.27、於：朝鮮臨戦護国団主催の婦人大会）」、「大東亜建設と私たちの準備」（1942.2.15、於：府民館でのシンガポール攻略大講演会）などの親日的講演を行った。そのため、2002年に「民族の精気を立て直す国会議員の会」が発表した「親日・反民族行為者」リストに載せられている。8・15独立後には、1945～61年まで、梨花学堂理事長兼梨花女子大学校長に在任。1950年に大韓民国公報所長に就任した他、大韓女子キリスト教青年連合会理事長、大韓赤十字社副総裁、韓国女学士協会会長、ユネスコ韓国委員会執行委員など様々な団体で活動し、国際連合総会韓国代表をはじめとし、数十回にわたり国際会議に参加した。1963年には大韓民国章、マグサイサイ賞（公益部門賞）、The Upper Room 賞を相次いで受賞した。5つの名誉博士号を授与された他、外交発展に貢献した功績が認められ、1970年に1等修交勳章が授与されている。同年死去。
- 7 鄭前掲書、p.116
- 8 同上、p.117
- 9 金貞玉著『叔母 金活蘭』は韓国で1977年4月に刊行、1998年11月に再版されている。
- 10 金貞玉は朝鮮式体罰だと言っているが、この方法は第二次大戦中において日本の軍隊が中国人にも適用したことが野田正彰『戦争と罪責』（岩波書店、1998年）等にも記されている。
- 11 梨花女子高等学校『梨花女子高等学校100年史』（1994年12月刊、『梨花百年史』と略記）及び梨花女子大学『梨花女子大学100年史』（1994年5月刊、『大学百年史』と略記）は、翻訳後、高等女学校研究会プロジェクトチーム編『高等女学校に関する調査資料 No.8』に掲載した。以下、同書からの引用に関してはページを付記しない。
- 12 若生みすず「光州学生運動と権友会」、むくげの会編著『植民地下朝鮮・光州学生運動の研究』所収、1990年、むくげの会刊、pp.30～31

- 13 金マリアは、1893年6月18日黄海道長淵郡の富豪の家に誕生した。この地はアメリカ北長老教会の初期の伝道地で、マリアの両親は宣教師アンダーウッドから洗礼を受け、三番目の娘にマリアと言う名前を付けた。しかし、マリアは4歳の時父に死別し、10歳の時に母にも死別したが、母はマリアの姉に「聡明なマリアを外国に留学させるように」と遺言していた。北長老教会の経営するソウルの貞信女学校に入学し抜群の成績で卒業したマリアは、一時母校の教師を勤めた後、日本の広島高等女学校（現、広島女学院）を経て、東京に移り、貞信女学校と同じ北長老教会系の女子学院に入学した。1918年に東京留学生独立団に参加し、東京女子医専の学生黄愛徳と出会う。東京留学生による「2・8独立宣言」があった後、朝鮮国内での独立運動工作のため2月17日に帰国した。その後各地で活動を続けたため、金マリアと黄愛徳は3・1運動に関連して保安法違反嫌疑で収監されたが、同年8月5日に予審免訴で出獄、愛国婦人会秘密地下組織の会長として活躍した。しかし、同年11月28日には兩名他幹部10人が逮捕された。金マリアは3年の刑を受けて服役したが、1920年に病気のため保釈となり、療養中の1921年に上海へ脱出した。上海では臨時政府の黄海道代議員、在上海愛国婦人会幹部として活躍したが、南京金陵大学を経て1923年米国に亡命した。翌年ミネソタ州のパーク大学文学部に入学し、苦学しながら卒業したが、その間も独立運動を続けている。1933年に帰国後は、教育を通して若い人々を独立戦線に立たせようと決意し、元山のウィルソン神学校に勤めた。日本官憲は神学校の門を閉じるよう命じたが、金マリアは最後まで後輩の養成に専念し、1945年3月13日平壤の病院で死去した。祖国の独立のために献身した53年の生涯であった。（丁堯燮著・柳澤七郎訳『韓国女性運動史』、高麗書林、1992年、大島孝一「金マリアと日本—3・1独立運動のころの女子留学生」、『季刊三千里』17号所収、1979年2月、を参照。）
- 14 『光州抗日学生事件資料 朝鮮総督府警務局極秘文書』は1979年に風媒社より刊行されている（全424ページ）。
- 15 同上（姜在彦解説）、p.29
- 16 同上、p.30
- 17 同上（状況摘録）、p.67
- 18 同上（姜在彦解説）、p.21
- 19 『文教の朝鮮』第54号、昭和5年2月1日発行、朝鮮教育会（復刻『文教の朝鮮』第22巻、エムティ出版）、pp.119～124
- 20 前掲『事件資料』（姜在彦解説）、pp.32～33
- 21 同上（状況摘録）、p.74
- 22 同上（影響 其の二）、p.173
- 23 若生前掲論文、p.32
- 24 姜在彦「1920年代の抗日民族運動」、『季刊三千里』39号所収、1984年、p.212
- 25 前掲『事件資料』、p.125
- 26 朴慶植『日本帝国主義の朝鮮支配』p.326では、参加学校数194校、参加学生数約6万人、退学処分者数582人、無期停学者数2,330人、被検挙者数1,642人となっている。
- 27 若生前掲論文、p.28
- 28 同上、p.29

- 29 前掲『事件資料』、p.209。知己のない学校は、女子商業学校、女子美術学校、槿花女学校、淑明女高普、新明女高普の5校であり、それぞれの連絡係を指名した。
- 30 丁前掲書、p.198
- 31 同上、p.198
- 32 その様子は、「新学期開始後1月13日、更に裏面行動を開始し梨花女高普崔福順、崔允淑、金鎮賢の三名主として奔走、各学校に連絡を取り1月14日夜の会合に於いて具体的協議を遂げるに至りたり」と記されている（『事件資料』、p.210）。
- 33 同上、p.210
- 34 若生前掲論文、p.34。これは『朝鮮日報』（3月20日付）に掲載された記事である。
- 35 柳寛順（1902～1920）は、忠清南道に誕生。父は開明的な人物であり、「興護」という私立学校を設立したが多額の借金を抱えたため、貧しい家庭に育った。アメリカ人宣教師の援助により、梨花学堂に給費生として入学した。1919年、3・1運動が勃発すると、総督府から各学校に休校命令が下ったため故郷に帰った柳は、教会関係者などを通じて万歳デモを計画、4月1日に市場に集まった群衆に対して独立運動の演説を行い、デモ行進に移った。この時、憲兵の発砲により父母が死亡した。柳はデモを主導した罪で懲役3年が宣告されたが、獄中デモを主導するなどの抵抗を続けたと言われている。1920年10月、西大門刑務所内で残酷な拷問により獄死したとされるが、死亡日時には諸説ある。1962年、韓国政府がその功績を認めて「建国勲章」を授与し、独立烈士と呼ばれるようになった。『梨花百年史』には「殉国少女‘柳寛順’」として十数ページにわたり柳の生い立ち、3・1運動での活躍の内容、裁判記録などが克明に綴られ、記念碑文、記念歌、追悼歌、追慕歌、柳寛順烈士語録等が詳細に記されている。かつて筆者が梨花高女を訪問した際にも、校長室に柳寛順の胸像が飾られていたのを記憶している。
- 36 前掲『事件資料』（解説）、pp.38～39